平成 26 年２月６日

各　　位

会 社 名　株式会社リプロセル
代表者名　代表取締役社長　横山　周史
（コード番号：4978）
問合せ先　取締役 経営管理部長　片山　浩美
（TEL. 045-475-3887）

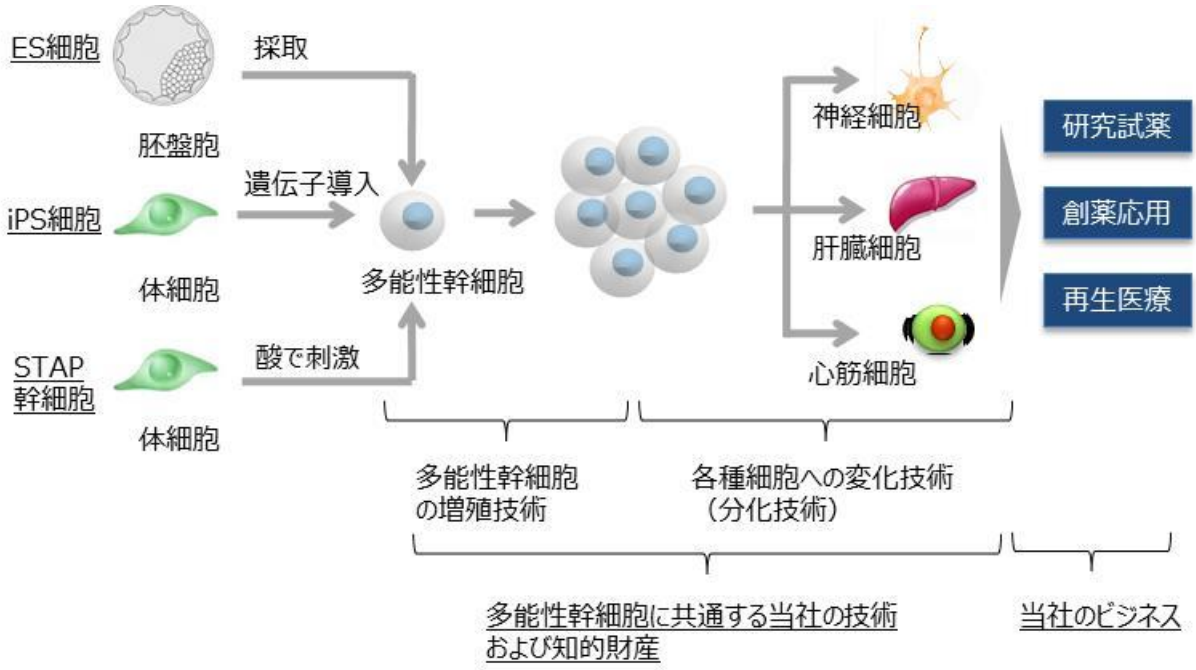
STAP 幹細胞と当社ビジネスの関係について

先般、理化学研究所様の刺激惹起性多能性獲得細胞（英:Stimulus-Triggered Acquisition of Pluripotency cell、いわゆる「STAP 細胞」）の発明の報道以降、当社へ多くの方々から STAP 細胞と当社のビジネスとの関係についてのご質問を頂戴しておりますので、当社としての見解を説明させていただきます。

結論から申しますと、STAP 幹細胞の発明は当社にとって大きなプラス材料であり、当社が蓄積してきた技術力や知的財産を STAP 幹細胞にそのまま応用することで、大きなビジネス機会の創出につなげられると考えております。

STAP 幹細胞は、マウスの細胞を弱酸性の液体に入れ、その後適切な条件で培養する、という極めてシンプルな方法で、ES 細胞/iPS 細胞と同じような性質を有する多能性幹細胞（万能細胞）を作ることに成功した画期的な発明と言えます。

一方、当社の技術上の強みおよび知的財産は、ヒトの多能性幹細胞（ES/iPS 細胞）を効率よく増殖させ、その後、心筋細胞、神経細胞、肝細胞などの様々な細胞に変化（分化）させる技術になります。つまり、当社の強みは、多能性幹細胞を作る部分ではなく、その細胞をいかに使うかという後工程のプロセスになります（図を参照）。



当社はヒト iPS 細胞が発明される以前から、ヒト ES 細胞を使って、長年技術開発を進めてまいりましたが、その技術をヒト iPS 細胞にそのまま適用することで、ビジネスを拡大して参りました。
今後、ヒト STAP 細胞が発明されれば、新たなヒト多能性幹細胞として取り入れ、当社のプラットフォーム技術をそのまま適用することで、ビジネスをさらに拡大する予定です。

以上